

## 一人ひとりの言語感覚を豊かにする国語科授業のあり方

今井 克彦 荒牧 剛志 益田 俊男

### 1 国語科が目指す「夢中になって問い続ける生徒」とは

本校国語科では、「夢中になって問い続ける生徒」について、以下の二つの生徒像を想定しました。

- (1) 表現を受け止め、言葉に立ち止まりじっくり考える生徒
- (2) 思いを伝えるために試行錯誤し、「自分の言葉」を創り出す生徒

(1)の「言葉に立ち止まる」とは、生徒が言葉に関心をもち、注目することです。これによって、普段は何気なく目にし、耳にしている言葉のおもしろさを、生徒に実感をもって味わわせたいと思います。

(2)の「『自分の言葉』を創り出す」とは、生徒が言葉にこだわりをもち、表現することです。これを通して、普段は何気なく発している言葉を、生徒に納得のいくまで徹底的に吟味させたいと思います。

(1)(2)の生徒像は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を、生徒が主体的・意欲的に育てている姿だといえます。

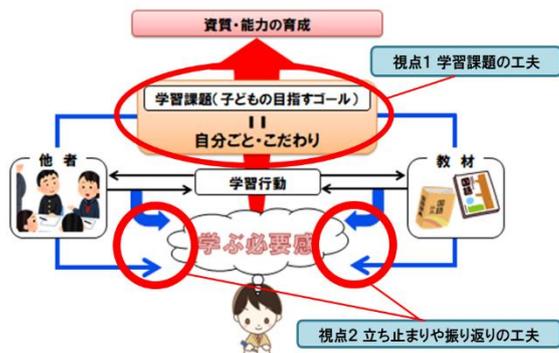
### 2 「夢中になって問い続ける生徒」を育成するために

上に述べたような「夢中になって問い続ける生徒」を育成するために、本校国語科では「学習課題」と「振り返り」の工夫に努めてきました。

私たちは、「夢中になって問い続ける思考のメカニズム」を資料1のように捉え、学習課題を生徒にとっての目指すゴールと位置づけました。この学習課題は、単元で育成を目指す資質・能力に向かうように工夫する必要があります。また同時に、生徒にとって「自分ごと」となるように

も工夫することで、生徒に「学ぶ必要感」をもたせたいと考えたのです。これにより、学習課題にこだわりをもった生徒は、自分と他者との考え方を比較して考えたり、教材の捉え方を自ら問い直そうとしたりします。ここに、教師が授業のねらいに合わせて、立ち止まりや振り返りの手立てを意図的に組み込むことで、生徒はさらに学ぶ必要感を高め、自ら学びを深めていきます。私たちは、このような思考のメカニズムを繰り返すことが、夢中になって問い続けるためには欠かせないことだと考えました。

また、このような夢中になって問い続ける学びを繰り返していくことこそが、本校国語科のテーマでもある、生徒一人ひとりの言語感覚を豊かにしていくことにつながっていくと考えたのです。



資料1 夢中になって問い続ける思考のメカニズム

#### (1) 視点1 学習課題の工夫

学習課題を設定する際には、まず、単元で育成を目指す資質・能力を明確にします。次に、教材の特性を捉えます。最後に、これらのことをふまえた言語活動を設定します。このようにして、2年生の「卒業ホームラン」(東京書籍2年)では、学習課題を以下のように設定し、生徒に示しました。

【単元のゴール】 登場人物の言動の意味を考えながら、徹夫の変化が伝わるような「あの日の父親日記」で徹夫の本音を語ろう。そのためには、登場人物の「会話・内言」や「行動描写」と徹夫の変化を関連づけると考えやすい。

